

夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

「子どものとも」を彩る作家と画家たち ①

〜家庭での子どもの養育をどう考えるか〜



第2回絵本講座から

◆今回より、二〇〇九
(平成21)年10月10日、
絵本館ホール19番館
(現夢の本棚)で行わ
れた第2回「空とこど
も絵本館・絵本講座」
の講演内容「月刊もの
がたり絵本『子どもの
とも』の歩み(2)」
より抜粋してお届けし
ます◆この講演では、
第4号から第41号まで
が取り上げられ、松居
氏が絵本に起用した作
家や画家たちとの出会
いや交流のエピソード
が語られます。

なぜ「母の友」を出したか



「母の友」創刊号
福音館書店刊

◆「子どものとも」を
創刊する前に、一九五

三(昭和28)年9月に「母の友」という雑誌を出しました。この雑誌は、当時、戦後の日本の保育だとか家庭教育がどんどん変わってききましたし、アメリカから新しい児童心理学だとか、保育や幼児教育、あるいは家庭教育に関する新しい考え方がどんどん入ってきた。民主主義だとか、自由だとか平和だとか、それから人間の人權ですね。それまで日本では、あんまりそういうこと言われなかったんですけれど、◆そんな中で「母の友」をなせ出したかって言いますと、そういう新しい考え方を家庭の方に紹介するということ、もう一つは、子どもにお話を聞かせるということがとても大切ではないかと。で、「一日一話」ということに非常に

私の初代の社長の佐藤喜一夫妻は、子ども達に一日一話を読んでやっていただんです◆これは、羽仁もと子先生の元で「子供之友」という絵雑誌の編集長をしてらした上沢謙二先生が、「子どもに聞かせる365話」という4冊本がありまして、それを佐藤喜一夫妻は、自分の子どもに読んでやっていただんです◆で、子どもたちがそれを非常に楽しみにしていたと雑談の中で、もらしたもんですから、また、ちょうど私も結婚して子どもができた頃から、家庭での子どもを養育ってことをどういうふうに考えていくかってことが大きなテーマだったこともあり、一日一話ってのを特集

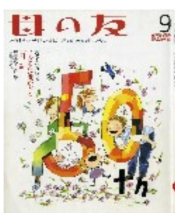


一日一話の書き手は

◆その一日一話の書き手としては、一つは現場の幼稚園、保育園の先生方の創作を募集するということをししましたし、もう一つは、お母さんが書いてくださればそういうものを載せるといって読者の投稿です◆そして一方では、その頃、「口演童話」というのが非常に盛んだったんですね。幼稚園、保育園そういう所へいらして、子どもたちに童話を話してやる、物語を話してやる。書くよりも話をする口演童話の運動ってのが、たいへん盛んでそういうものを作ってらっしゃる先生方がいらっしゃいました◆一方では、基本の児童文学、新しい児童文学の創作をしようってことで、与田準一先生だとか佐藤義美先生だとか活躍してらっしゃる方

早大童話会の創作活動

◆その他には、当時、早稲田大学を卒業した童話作家が非常に多かったんです。「早大童話会」ってのがありまして、小川未明、浜田広介、坪田譲二という「三種の神器」っていわれる方を中心に、非常に活発な創作活動をなさっていました◆そういう方にもお願いをしておりました。その頃の同人誌とか「母の友」に書いた方を詳しくお知らせになりたければ、「福音館書店50年の歩み」(福音館書店創立50周年記念 二〇〇二年刊)をお読みください (つづく)



創刊50周年記念特別号
2003年9月号
福音館書店刊